

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

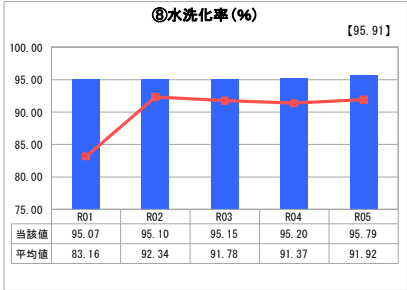
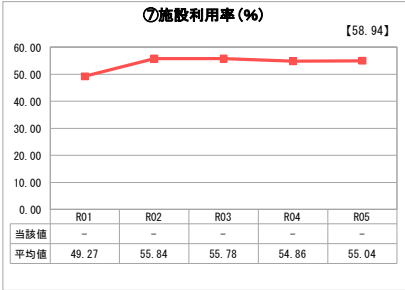
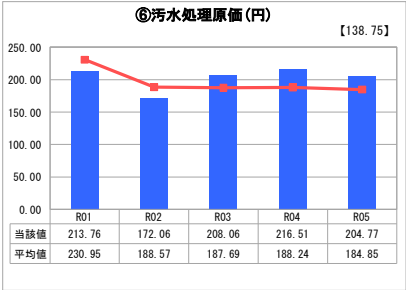
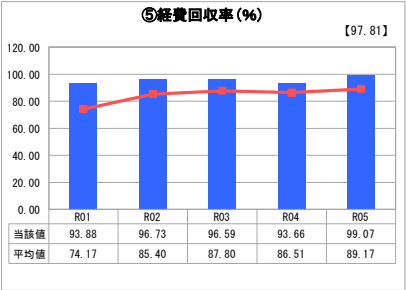
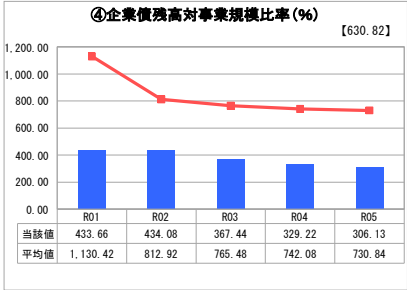
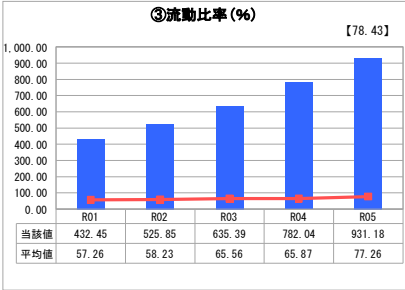
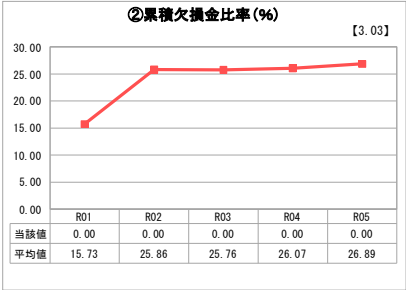
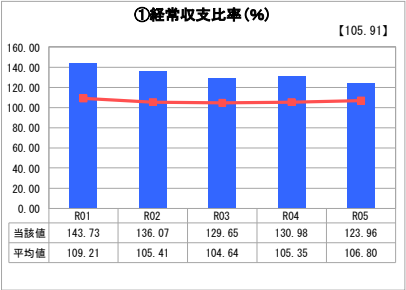
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	78.79	32.25	82.42	3,960

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
46,949	668.64	70.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
15,024	7.68	1,956.25

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

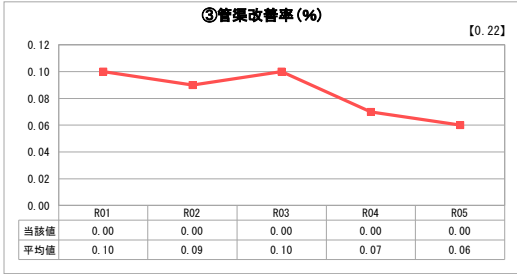
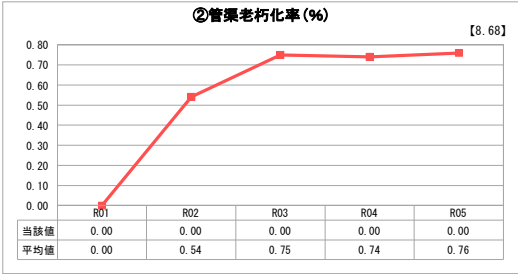
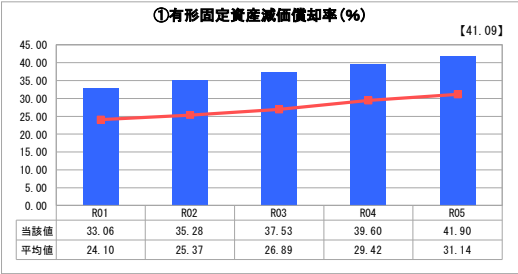
### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、類似団体と比較して、一定の経常収益を計上しているが、使用料収入などの経常収益が減少しており年々目減りしている。  
②累積欠損金については、例年、利益剰余金を計上しており、発生していない。当市は、複数事業の会計・経理を一体として行っており、下水道事業全体では、経常収支比率は103.3%、累積欠損金比率は、0.0%である。  
③流動比率については、公共下水道事業だけで見ると、年々上昇しており、当年度数値も類似団体と比較して高い数値を示しているが、下水道事業全体でみると、42.2%と低く、短期的な債務に対する支払い能力の低さが課題である。  
④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借入）の償還ピークが過ぎていることから、類似団体と比較して低い数値を示している。しかし、今後は管路の長寿命化など老朽化対策、防災対策等により再び企業債が増加することが予想され、費用の標準化による効率的な管理運営、投資・予算配分の適正化に努める。  
⑤経費回収率については、公共下水道事業だけでいうと前年度に比べ、改善傾向となった。  
⑥汚水処理原価については、汚水処理費が減ったため、前年度に比較し減少した。  
⑧水洗化率は処理区域内人口、水洗便所設置済人口のそれぞれ減少により多少の減少はあるものの、ほぼ横ばいである。今後とも下水道未接続世帯への働きかけを継続していく。

### 2. 老朽化の状況について

当市における公共下水道事業は昭和46年から建設着手している。  
①有形固定資産減価償却率については上昇傾向にある。令和3年度より耐用年数に達するものが少しずつ発生しており、今後、更新や長寿命化などの老朽化への対応について、一層計画的に行っていく必要がある。（下水道会計全体での数値は、以下「全体総括」を参照のこと。）

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

### I. 現状分析

1 下水道会計全体では、①経常収支比率は103.3%、②累積欠損比率は0.0%により、単年度収支が黒字、累積欠損は発生していない。また、③流動比率42.2%、④企業債残高対事業規模比率441.1%、⑤経費回収率88.4%である。使用料収入の減少、物価高騰などに加え、ここ数年不明水率の上昇が経営に大きな影響を与えており、管路点検・補修等の不明水対策を継続することで、汚水処理経費の減減につなげたい。  
2 下水道会計全体での①有形固定資産減価償却率は41.2%であるが、将来の管渠等の更新について計画的な検討が必要である。

### II. 経営改善に向けた方向性

令和3年10月改定の経営戦略、ストックマネジメントなどに基づき経営を行っているが、経営の健全化に向けて望ましい使用料体系の在り方について検討を行うため、令和6年度に委員会を立ち上げた。令和7年9月を目途に、提言を頂くべく、取り組んでいるところである。  
※経営分析表の前提条件  
当市では決算統計区分の事業の会計・経営を一体とし、下水道使用料収入も一本化されている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（令和5年度決算）

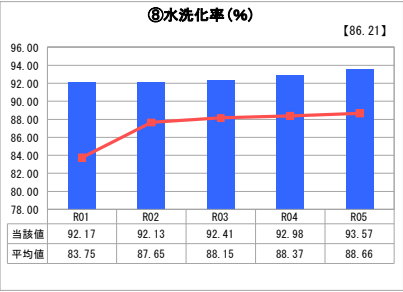
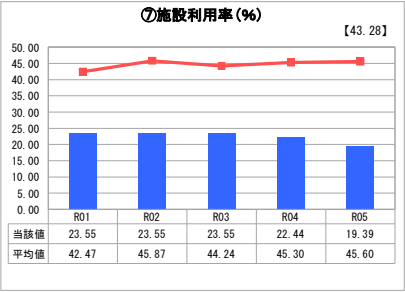
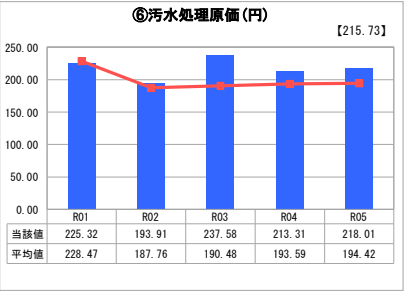
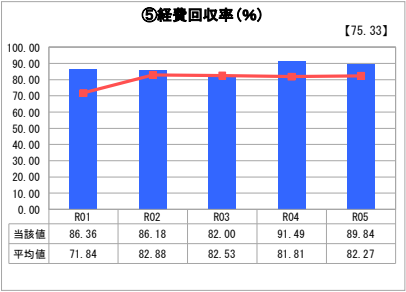
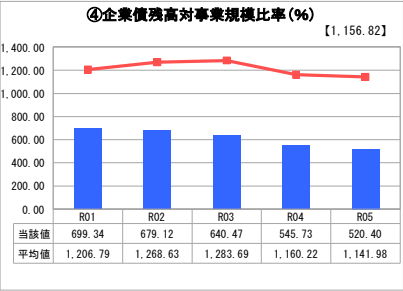
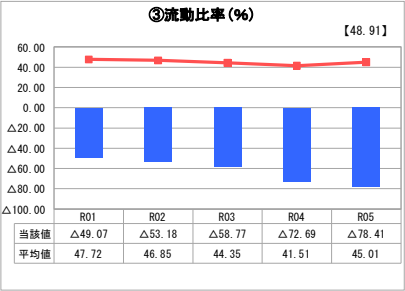
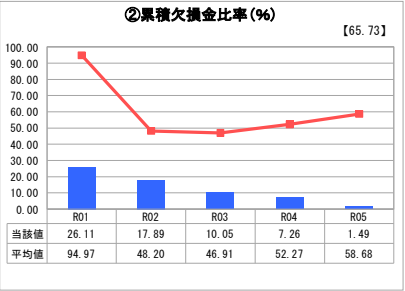
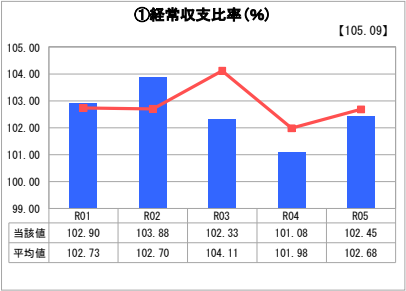
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金 (円)
-	65.47	57.00	73.44	3,960

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
46,949	668.64	70.22
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
26,552	10.58	2,509.64

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、経常収益費用とも減少したが、比率は昨年度より改善した。

②累積欠損金比率については、当年度は前年度より減少している。

※当市は、複数事業の会計・経営を一体化して行っており、下水道会計全体での①経常収支比率は103.3%②累積欠損金比率は0.0%である。

③流動比率については、マイナス傾向が年々増加しており、短期的な債務に対する支払能力の低さが課題である。下水道会計全体での流動比率は42.2%となっている。

④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借金）の償還ピークが過ぎたことから減少傾向にあるが、今後は管路の長寿命化など老朽化対策、防災対策等により再び企業債が増加することが見られるため、費用の平準化等による効率的な管理運営、投資・予算配分の適正化に努める。

⑤経費回収率については前年度より2ポイント減と使用料のみで100%賄うことができていないため、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費のさらなる削減に努める。

⑥汚水処理原価については、汚水処理費が減少した一方、有収水量も減となり横ばいとなった。

⑦施設使用率については、平成30年度より流域処理水量を計上しなくなったため、前年度と同様に低い数値を示している。

⑧水洗化率はほぼ横ばいである。今後とも下水道未接続世帯への働きかけを継続していく。

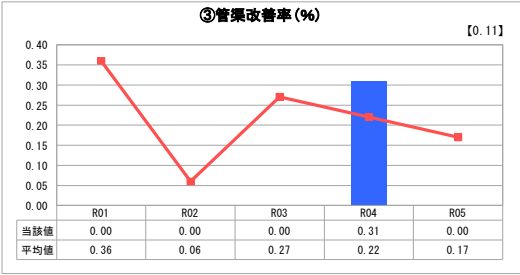
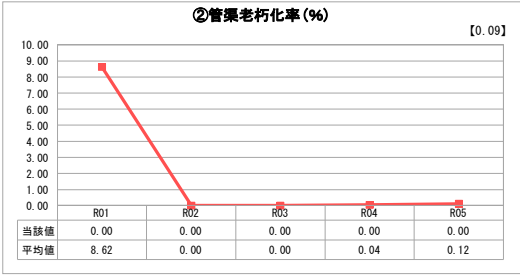
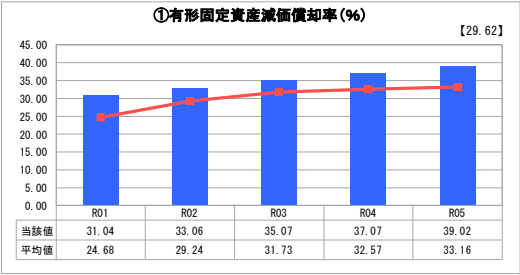
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価却率については上昇傾向にあり、類似団体平均値を上回っている。今後、ストックマネジメントに基づいた更新や長寿命化などの老朽化への対応が迫られる。

②管渠老朽化率は耐用年数に達した管渠が無いため、0である。

（下水道会計全体での数値は、以下【全体総評】を参照のこと。）

2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

全体総括

※公共と同様

経営比較分析表（令和5年度決算）

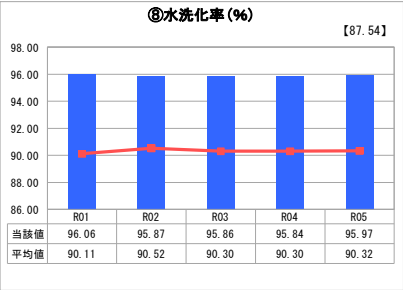
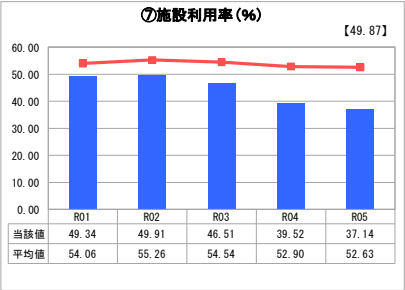
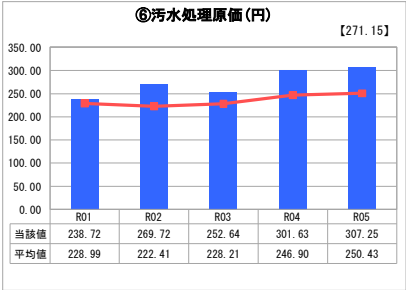
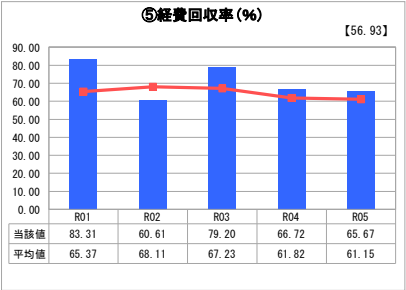
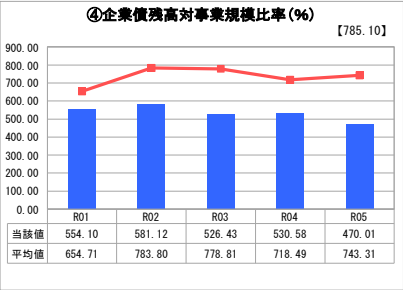
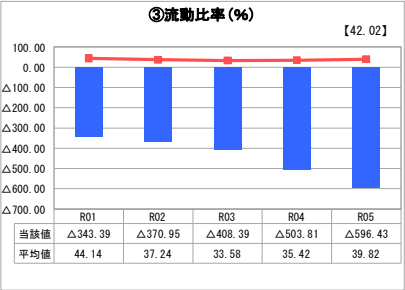
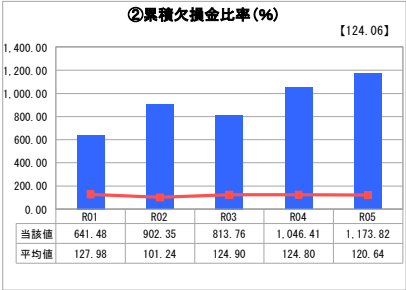
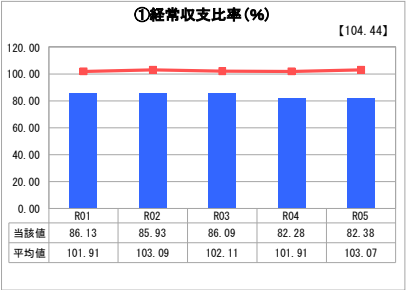
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	76.75	9.85	70.47	3,960

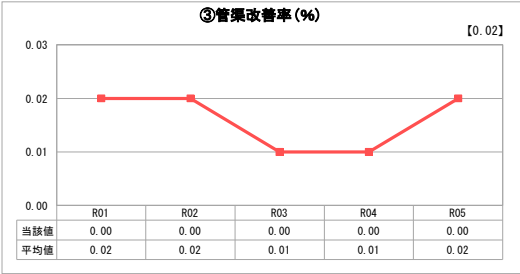
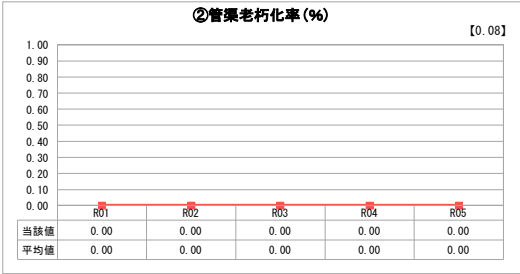
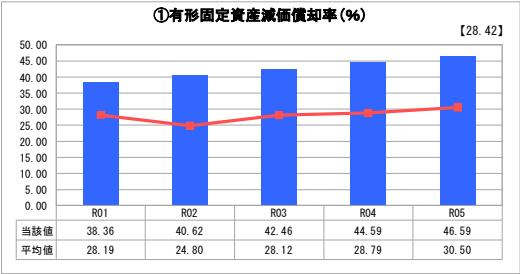
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
46,949	668.64	70.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,588	2.21	2,076.02

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、毎年類似団体よりも低い数値となっており、経常損失を毎年計上している。  
②累積欠損金比率については、類似団体より高い数値となっている。当年度未処理欠損金が昨年より大きくなり、累積欠損金を継続して計上している。  
③流動比率についてはマイナス値が年々大きくなっている。これは処理場経費や減価償却費、起債償還利息等の経費負担が多額となっていることが要因であるが、その背景には山間部に集落が点在していることや、事業方針により排水人口が少ない地域であっても環境衛生面面向うのために下水道の整備を行っている等の経緯があるもの。（⑧についても同要因による。）  
※当市では複数事業の会計・経理を一体として行っており、下水道会計全体のバランスを取っている。平成22年5月使用分より使用料の改定と一般会計からの繰入の見直しを組み合わせて行った。（下水道会計全体での数値は、以下【全体総括】を参照のこと。）  
④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借金）の償還ピークが過ぎたことから、類似団体と比較して低い数値を示している。しかしながら、今後は管路の長寿命化対策等老朽化対策、防災対策などにより再び企業債が増加することが予想されるため、費用の平準化等による効率的な管理運営、投資・予算配分の適正化に努める。  
⑤経費回収率については、汚水処理費は減少したため、前年とわずかに減となった。  
⑥⑤に伴い、汚水処理原価は若干上がった。  
⑦施設利用率については、当年度も前年度と同様に50%をきっている。また、類似団体と比較しても低い数値となっている。  
⑧水洗化率はほぼ横ばいで高い水準となっている。

2. 老朽化の状況について

当市における農業集落排水事業は昭和53年から建設着手している。法定耐用年数を経過した処理場、管渠等はない。  
①有形固定資産減価償却率については、増加傾向にあり、類似団体平均値を上回っている。  
（下水道会計全体での数値は、以下【全体総括】を参照のこと。）

全体総括

※公共と同様

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（令和5年度決算）

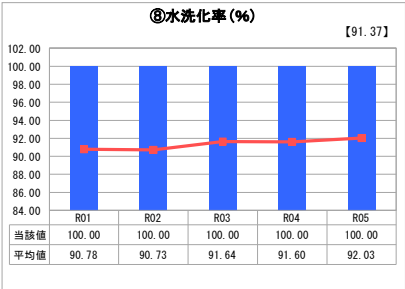
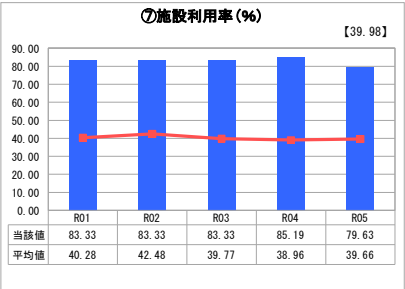
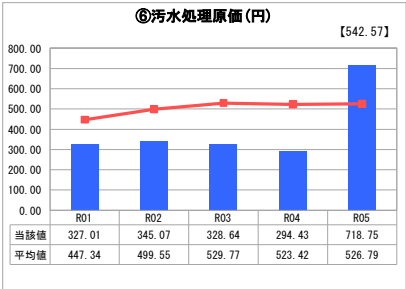
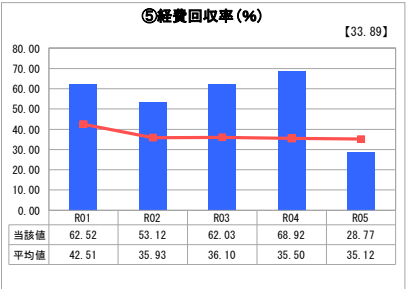
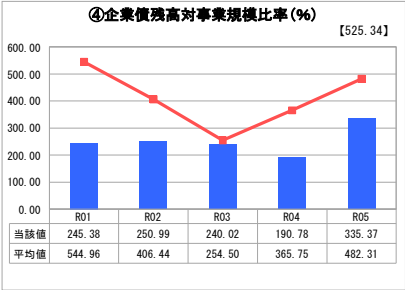
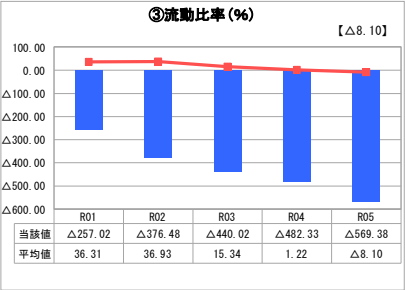
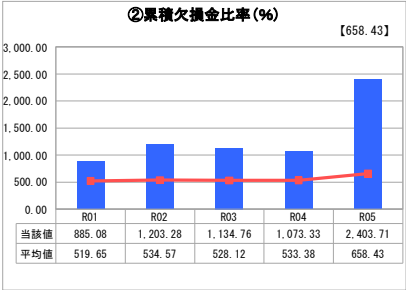
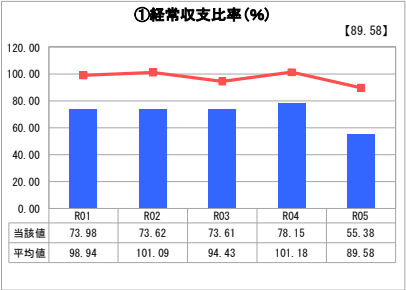
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	林業集落排水	G2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	81.35	0.17	29.44	3,960

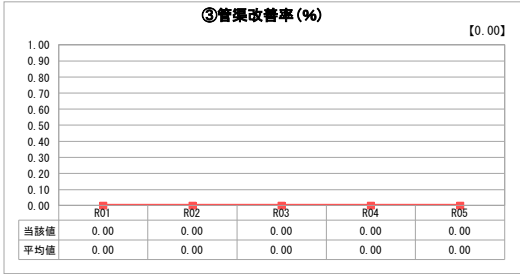
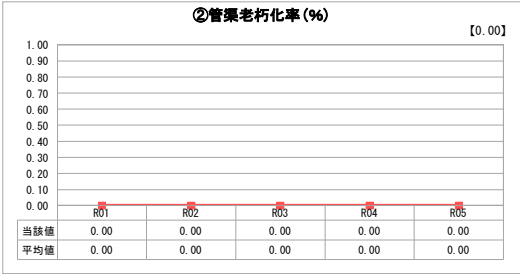
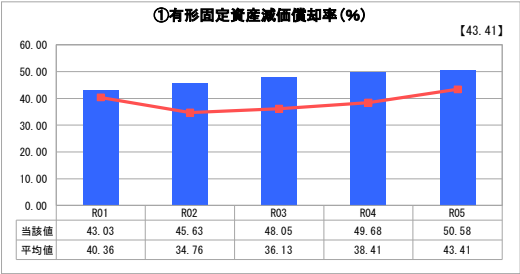
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
46,949	668.64	70.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
77	0.04	1,925.00

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、毎年類似団体よりも低い数値となっており、経常損失を毎年計上している。特に令和5年度は大口使用者の休業があり、使用料収入の減少となり影響している。

②累積欠損金比率については、類似団体よりも高い数値となっており、累積欠損金を継続して計上している。

③流動比率についてはマイナス値となっている。これは、処理場経費や減価償却費、起債償還利息等の経費負担が多額となっていることや、事業方針により排水人口が少ない地域であっても環境衛生面向上のため下水道の整備を行っている等の経緯があるもの。⑥についても同要因による。）

※当市では、複数事業の会計・経理を一体として行っており、下水道会計全体のバランスを取っている。平成22年5月使用分より使用料の改定と一般会計からの繰入の見直しを組み合わせで行った。（下水道会計全体での数値は、以下〔全体総括〕を参照のこと。）

④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借金）の償還ピークが過ぎたことから、類似団体と比較して低い数値を示しているが、今後は管路の長寿命化等老朽化対策により再び企業債が増加することが予想されるため、費用の平準化等による効率的な管理運営、投資・予算配分の適正化に努める。

⑤経費回収率については、①でも触れたとおり使用料収入が減少し、また、汚水処理費は増加となったため、前年度と比べて低下している。

⑥⑤に伴い、汚水処理原価は、昨年度より高くなった。

⑦施設利用率については、また、類似団体と比較して高い数値となっている。

⑧水洗化率については、処理区域内人口が小規模であることから、類似団体と比較し高い数値となっている。

（下水道会計全体での数値は、以下〔全体総括〕を参照のこと。）

2. 老朽化の状況について

当市における林業集落排水事業は平成7年から建設着手している。法定耐用年数を経過した処理場・管渠等はない。

①有形固定資産減価償却率については上昇傾向にあり、類似団体平均値を上回っている。

（下水道会計全体での数値は、以下〔全体総括〕を参照のこと。）

全体総括

※公共と同様

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

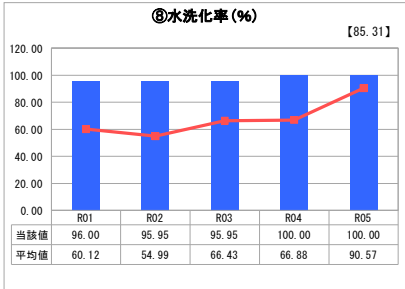
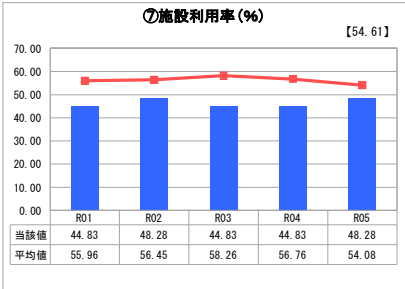
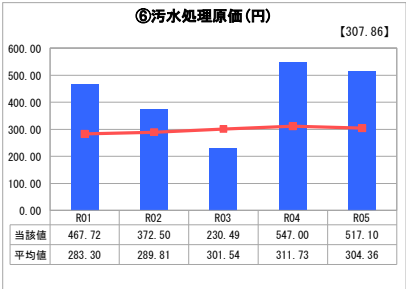
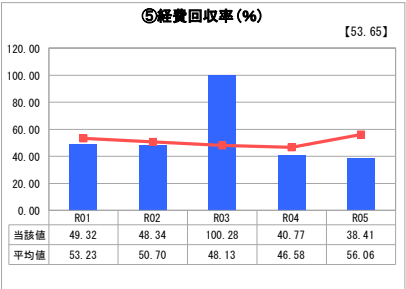
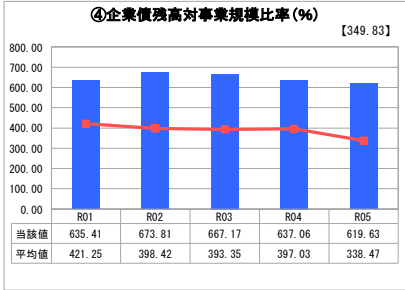
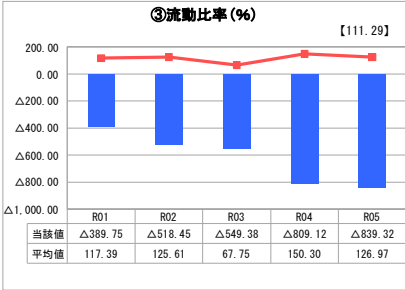
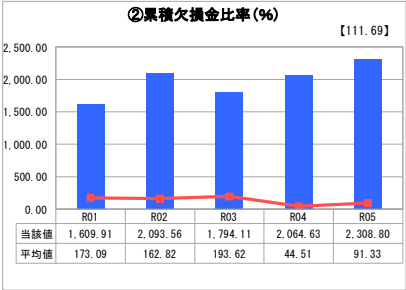
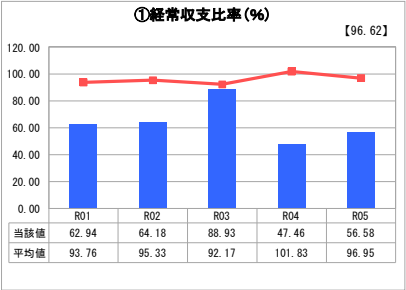
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	△74.92	0.14	100.00	3,960

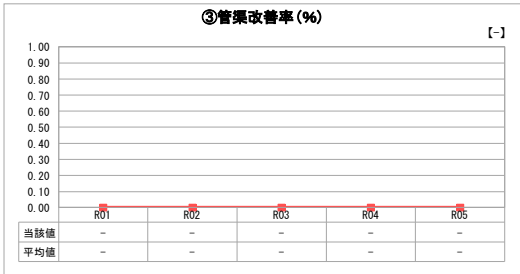
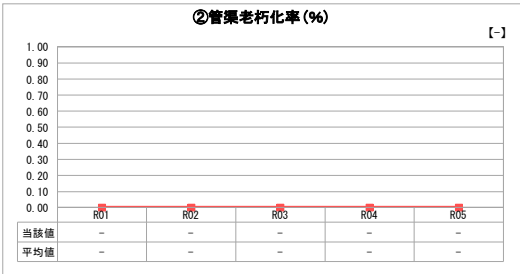
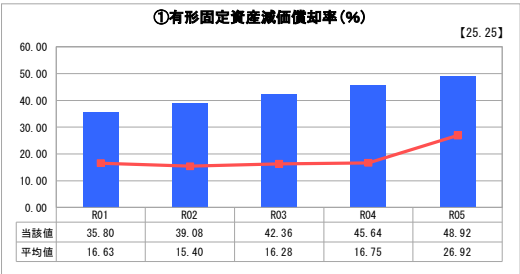
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
46,949	668.64	70.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
65	0.02	3,250.00

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、使用料、一般会計繰入金等の経常収益の減少により昨年と比べて微増となったが類似団体より低い数値となっており、毎年経常損失を計上している。

②累積欠損比率については、下水道使用料の減額により昨年と比べて増加しており、累積欠損金を継続して計上している。

※当市では、複数事業の会計・経理を一体として行っており、下水道会計全体のバランスを取っている。平成22年5月使用分より使用料の改定と一般会計からの繰入の見直しを組み合わせて行った。

③流動比率については、前年度に引き続きマイナスとなり、年々増大している。また、下水道会計全体についても42.2%と低く、短期的な債務に対する支払能力の低さが課題である。

④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借金）の償還ピークが過ぎたが、事業費に占める企業債の償還金が依然として高い値となっている。引き続き効率的な管理運営、予算配分の適正化に努める。

⑤経費回収率については、下水道使用料の減額により、前年度に比べてわずかに減少している。

⑥汚水処理原価については、下水道使用料の減額の方、汚水処理費の増により、前年度に比べて低くなっている。

⑦施設利用率については、当年度も前年度と同様に50%をきいている。また、類似団体と比較しても低い数値となっている。

⑧水洗化率については、処理区域内人口が小規模のため、類似団体よりも高い数値を示している。

（下水道会計全体での数値は、以下【全体総括】を参照のこと。）

### 2. 老朽化の状況について

当市における特定生活排水施設事業は平成19年から建設着手している。法定耐用年数を経過した排水処理施設等はない。

①有形固定資産減価償却率は上昇傾向にあり、類似団体平均値を大きく上回っている。

（下水道会計全体での数値は、以下【全体総括】を参照のこと。）

### 全体総括

※公共と同様

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

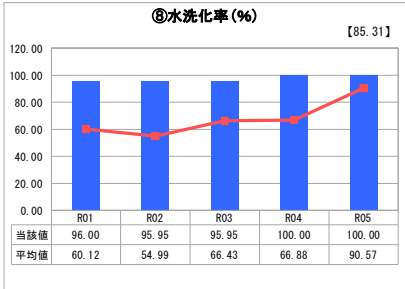
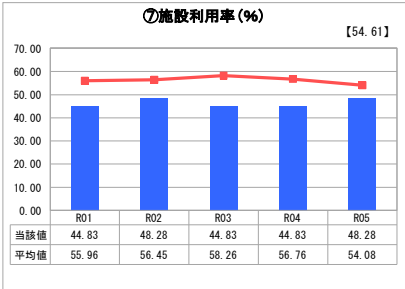
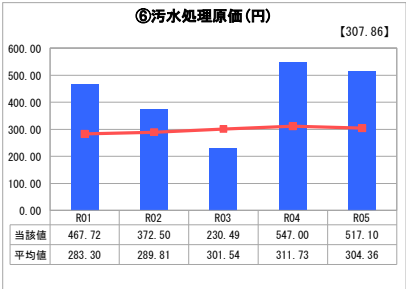
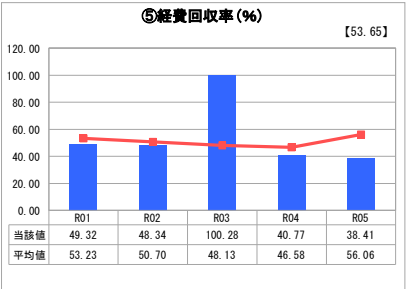
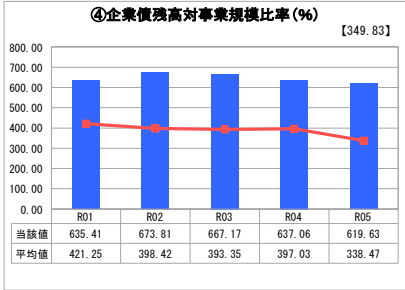
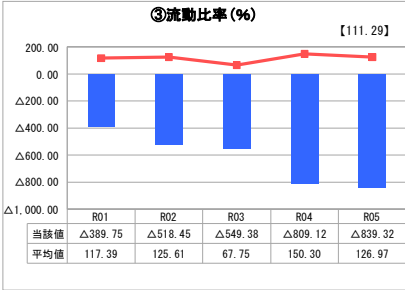
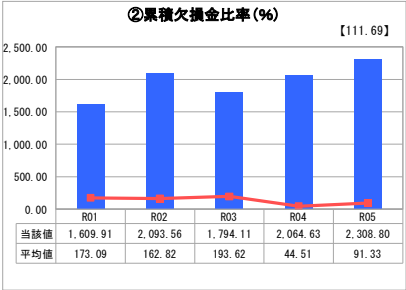
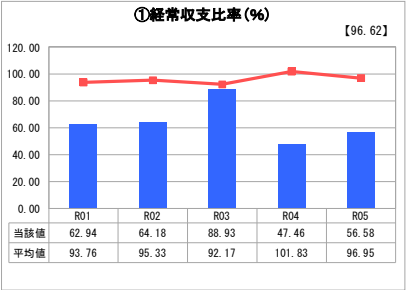
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	△74.92	0.14	100.00	3,960

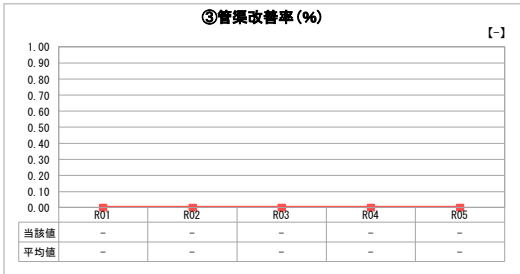
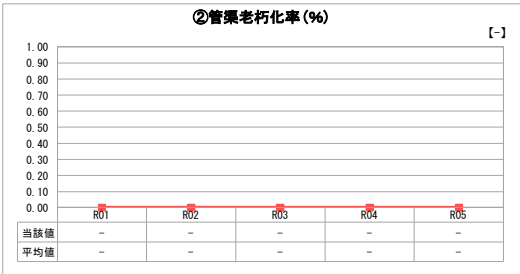
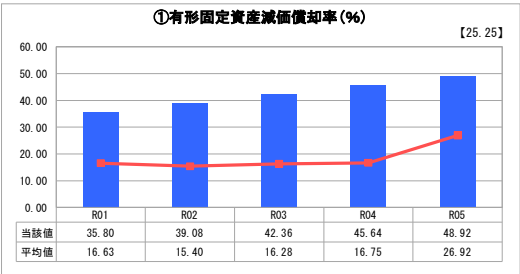
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
46,949	668.64	70.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
65	0.02	3,250.00

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、使用料、一般会計繰入金等の経常収益の減少により昨年と比べて微増となったが類似団体より低い数値となっており、毎年経常損失を計上している。

②累積欠損比率については、下水道使用料の減額により昨年と比べて増加しており、累積欠損金を継続して計上している。

※当市では、複数事業の会計・経理を一体として行っており、下水道会計全体のバランスを取っている。平成22年5月使用分より使用料の改定と一般会計からの繰入の見直しを組み合わせて行った。

③流動比率については、前年度に引き続きマイナスとなり、年々増大している。また、下水道会計全体についても42.2%と低く、短期的な債務に対する支払能力の低さが課題である。

④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借金）の償還ピークが過ぎたが、事業費に占める企業債の償還金が依然として高い値となっている。引き続き効率的な管理運営、予算配分の適正化に努める。

⑤経費回収率については、下水道使用料の減額により、前年度に比べてわずかに減少している。

⑥汚水処理原価については、下水道使用料の減額の方、汚水処理費の増により、前年度に比べて低くなっている。

⑦施設利用率については、当年度も前年度と同様に50%をきいている。また、類似団体と比較しても低い数値となっている。

⑧水洗化率については、処理区域内人口が小規模のため、類似団体よりも高い数値を示している。

（下水道会計全体での数値は、以下【全体総括】を参照のこと。）

### 2. 老朽化の状況について

当市における特定生活排水施設事業は平成19年から建設着手している。法定耐用年数を経過した排水処理施設等はない。

①有形固定資産減価償却率は上昇傾向にあり、類似団体平均値を大きく上回っている。

（下水道会計全体での数値は、以下【全体総括】を参照のこと。）

### 全体総括

※公共と同様

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。